

異才発掘プロジェクト ROCKET から見た不登校

東京大学先端科学技術研究センター
中邑 賢龍

ROCKETプロジェクトの背景

- ★イノベーションを期待する声
オールマイティで協調性のある人材養成を行う点では
優れた日本の教育システム
⇒ イノベーションの起きにくさ
 - ★突き抜けた子ども達の凸の部分を伸ばす教育の欠如
 - ★教科書では満足できない子ども達
 - ★不登校になると学べる環境が激減
⇒ フリースクールや適応指導教室では満足できない
- 学校に満足しない突き抜けた子どもたちの学びの場

ROCKET (Room Of Children with Kokorozashi and Extraordinary Talents)



ROCKETの柱

- (1) 毎月のスクーリング
 - ・ 突き抜けた興味を伸ばすトップランナーの授業
 - ・ Project based Learning
 - ・ 専門家による指導
- (2) オンラインチュータリング
- (3) テクノロジー活用支援（書きなどの苦手に対し）
- (4) 学校・教育委員会との連携・親の支援

*ROCKETで選ばれた子どもが異才かどうかわからない
彼らのがのびのび生きる環境から将来異才が生まれる

応募者から見えて来た実態

- 学校に馴染めない多くの子ども達の存在
説明会参加者1000名以上、応募者約600名
- 高知能あるいは高学力なのに不登校状態
 - オールマイティ型 授業に退屈（仮面不登校）
 - 凸凹型 偏った興味・約1/3に書字障害
 - 早期教育型

応募者600名から15名のスカラーを選抜

学習困難に起因する不登校

平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書

不登校のきっかけの27.6%は「勉強がわからない」
不登校の継続理由は 27.4%が

「勉強についていけなかったため」

平成25年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査

不登校のきっかけと考えられる状況

学業の不振：小学生 7.1%，中学生 9.2%

登校できるようになった児童生徒に効果のあった措置
個別の指導など授業がわかるようにする工夫：

小学校14.5% 中学校22.0%

これまでの調査では見えにくい不登校 と具体的支援策

- 登校している高学力生徒の中に潜む仮面不登校
 - ⇒ 退屈し授業中勝手な行動
 - ⇒ 飛び級・ICTを活用した個別学習の容認
- 学習の遅れの背後に潜む読み書き困難
 - ⇒ 聞いて話せば出来るのに評価されない
 - ⇒ ワープロ・電卓などで代替、採点方法の改善
- 凸凹で個性的な子どもの不登校
 - ⇒ 同じ事を求められ自信喪失・いじめの対象
 - ⇒ 新しい学びの場の必要性(オンライン学校等)

障害のある子どものICTを活用した教育・就労支援

DOIT Japan

<http://doit-japan.org/doit/index.php/>

異才発掘プロジェクト ROCKET

<http://rocket.tokyo>

問い合わせ先：

kenryu@bfp.rcast.u-tokyo.ac.jp